

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0191000231, 社会福祉法人 北海道友愛福祉会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0191000231-00&ServiceCd=320](https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0191000231-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる
認知症カフェの実施。開設して3年目です。新型コロナウイルスの感染予防のため 現在は、開始できていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別市の東方向にある豊幌地区の閑静な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。JR豊幌駅から徒歩圏内で、利便性が良く家族や友人、知人の来訪も多い。当事業所は、同法人内の盲人養護老人ホームの敷地内に隣接しており、夏祭りや避難訓練は合同で開催している。法人は、一昨年に45周年を迎え、「和顔愛語」の精神を基本として、盲人養護老人ホームや特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問介護、居宅介護支援、地域包括支援センター、保育園などを運営しており地域からの信頼も厚い。ホーム内は、建物正面が玄関で、中に入ると地域交流スペースがあり、左右対称にユニットが配置している。交流スペースでは、地域包括支援センターと連携して、毎月認知症カフェを開催して地域に広めている。避難訓練や事業所の行事にはボランティアや地域の方が多数参加協力があり、地域のへの関わりが大きい。また、ふまねっとインストラクター取得者が多数おり、健康体操を行っているが、新型コロナウイルス感染要望のため最近では自粛している。これからも地域の認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (e.g., ほぼ全ての利用者が), and Achievement Status (e.g., ほぼ全ての家族と).

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等で伝達し、地域密着型サービスの意義と理念の共有している。職員には実践に向けて取り組みをお願いしている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、全体会議で年4回程度理念について振り返り、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者が地域と繋がりを絶たないよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施や自治会の集まりへ参加し地域の方と交流する機会が増えている。	自治会のお祭りに事業所として参加協力したり、事業所内の地域交流スペースで認知症カフェの開催や隣接する盲人養護老人ホーム恵明園と合同で夏祭りを盛大に開催しているが、今年は新型コロナウイルスの感染予防で利用者だけの開催とした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出向く機会ができない。認知症カフェで認知症の理解や介護相談を地域の人々に実施している。現在、感染症予防の対策で実施していない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや施設状況、認知症に関する事などを会議を通して報告・検討し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、通所介護事業所と合同開催で、家族や自治会役員、民生委員や地域包括支援センター担当者、認知症地域支援推進員が参加して定期的に実施しており、運営状況の報告や意見交換を行いサービス向上に活かしているが3月からは書面会議で行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとはイベント等で交流を実施しています。また、認知症カフェを実施してから今年度、市役所職員とカフェの状況を報告する機会がありました。	地域包括支援センターと連携して、事業所内の地域交流スペースで認知症カフェを毎月開催しており、状況の報告等で市担当課と関わりが増え、更に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員採用時や研修で指定基準の身体拘束についての勉強会を開催しています。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内で身体拘束ゼロ委員会を設置して、毎月委員会を開催して検討しているが、今後は事業所内部でも委員会を設置して、事例の検討を行う予定である。身体拘束をしない指針やマニュアルを整備して、定期的に研修会も行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通し、学ぶことができています。また、併設施設と研修やユニット会議に行動が虐待に繋がっていないのか検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修へ行き、会議時に伝達研修する。理念に添ってその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。	ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況を報告している。また、裏面には利用者毎の近況報告を担当者が記載して報告している。家族からの意見や要望は、来所時に殆ど聞き取り会議で検討して、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	アンケートや職員全体会議を毎月開催し、職員の意見・提案を聞く機会を設け反映させている。年3回、面接し意見等を収集している。	ユニット会議は月1回行い、全体会議も毎月行っている。職員へのアンケート調査も年1回実施しており、個人面談は年3回定期的に行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課面接を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修への参加を促し、職員にはアドバイスやスキルアップへの取組みを支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、職員間交流やサービスの質向上に取り組んでいる。江別オレンジRUNの活動に参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを通しての職員との関係作り、他入居者とのコミュニケーションを職員が仲介しながら、関係づくりに努めている。日々の関わりの中で不安や要望を聞き出し、把握した後対応し、本人の安心に繋げられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居時に家族様の不安や要望の話しをしている。 サービス利用後は面会時や電話連絡時に、入居者様の様子を伝えるとともに、家族様の話も伺い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報をもとに必要な支援を見極め、職員間で共有し、安全・安心した生活が送れるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見極め、体調に配慮しながら一緒に行っている。 食器拭きやタオルたたみ等の作業を一緒に行い、関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が本人の状況や環境を把握し、物品の依頼や通院の依頼を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望した際の電話の使用や、家族・知人から電話が来た際には本人に取り次いでいる。 地域の馴染みの場所を活用した行事や外出を計画し、実施している。	家族や友人、知人の来訪が多いが、新型コロナウイルスの感染予防のため、現在は面会自粛を行っている。普段は、地域の馴染みの場所の神社や公園、地域の行事、飲食店などへの外出を支援して関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が円滑に交流・関係作りができるように職員が会話の仲介等を行っている。 利用者大勢で参加出来る行事を企画し、交流の機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて家族様との連絡、情報提供等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や介護計画作成時の担当者会議において本人様や家族様の意向を聞き、モニタリングの際には本人様の意向に配慮しながら本人本位に検討している。	利用者の思いや意向については、介護計画作成時の担当者会議にて、本人や家族の希望や意向を聞き取り、モニタリングでも本人の意向を配慮しながら、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしや生活歴を把握し、出来る限り馴染んだ暮らしや環境に近付けるように経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方一人ひとりの過ごし方、心身状態、有する力等の現状を日々の関わりから把握し、情報を共有し支援や対応に繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者や各入居者担当職員が本人・家族・関係者から意見を聞き、反映させることで現状に即した介護計画を作成している。必要時は本人の現状に即した介護計画の見直しを随時行っている。	利用者毎の担当者が本人や家族からの意見や要望等の情報収集をして、計画作成担当者が原案を作成し、ユニット会議やモニタリングで検討して情報共有し、本人の現状に即して介護計画を作成している。また、個別記録がわかり易いフォームで作成しており、介護計画の見直しに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者毎の介護記録に毎日日々の様子やケアの実践・結果を記入し、職員間での情報共有を行っている。記録の情報をもとに、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズを考え、そのニーズに適した支援が提供できるように、ご家族様の協力も得ながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪やカフェの開催、地域行事に出来るだけ参加し、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の聞き取り、本人及び家族等の希望を把握し入所して頂いている。定期受診を継続し、入所後の情報や様子をやり取りする事でかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	以前からのかかりつけ医は、本人や家族の意向を聞き取り継続して家族が同行受診しているが、訪問診療への意向が増えている。看護師が常駐しており、24時間体制で、定期的な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各入居者の情報や気づきを看護職員や訪問看護師等に伝え、必要時は随時相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報の提供を医療機関に迅速に行っている。 入院後も病院関係者との情報交換や相談に努め、関係づくりするとともに、早期退院出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化の方針を本人又は家族様に説明し理解して頂いている。 状態把握を行い、更に重度化した場合には事業所と主治医と家族様で連携し方針を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化した場合の対応について説明し同意を得ている。重度化した場合には、主治医と家族、事業所と話し合い看取りの意向の場合は、連携してチームで支援に取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で急変時や事故発生時の対応について定期的に確認を行い、備えている。 事故対応マニュアルを作成し、全職員が確認できるように行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年を通して4回避難訓練を実施している。各災害想定、夜間想定での避難訓練を行い、併設施設と机上シミュレーションし、定期的に検討を行っている。地域自治会や消防団と合同で訓練を行っている。	避難訓練は消防団や自治会など地域の協力により、隣接する盲人養護老人ホームと合同で年4回実施している。内1回は地震などの自然災害の訓練で、備蓄や備品を整備し避難先も決めるなどし、町内在住の職員も増え、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全体で一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。 毎月ユニット会議にて不適切な言葉かけや対応を確認し職員間で検討している。	人格の尊重やプライバシーについては、ユニット会議や身体拘束ゼロ委員会でスピーチロックなど含め言葉使いや対応について話し合い、検討して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表しやすいような声掛け、対応を心掛けている。 自己決定できるような働きかけや言葉かけに注意し、対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体操やレクリエーション、行事への参加はお客様本人の希望に沿って支援をしている。入浴や洗濯等の希望があった時は、出来るだけ希望に沿えるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は可能なお客様には本人に選んで頂き、その人らしい身だしなみやお洒落ができるように職員も配慮している。毎日整容を行い、月1回訪問理容にて散髪・顔剃り・パーマ等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにして頂けるように毎週献立表を掲示している。毎年野外食や外食行事を実施している。調理レク・おやつ作りでお客様と職員と一緒に調理したり、体調に合わせて片付けをして頂いている。	食事は、隣接する盲人養護老人ホームから副食が提供される。利用者は、職員と一緒に片付けなどを手伝っている。調理レクは、お好み焼きやパンケーキ、おはぎなど多彩で、駐車場でバーベキュー、外食は和食レストランや回転寿司など楽しみな支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各お客様の水分摂取量を毎日記録し、1200ccを目標に水分摂取を勧めている。病気に合わせて低カロリーや減塩の物を提供している。お粥やソフト食等で摂取しやすい物を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	天然歯の状態・義歯の不具合等を確認しながらお客様本人の能力に応じて口腔ケアを行っている。月1度歯科医に口腔に関する事を相談し、清潔保持を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しパット・オムツの使用減に努めている。一人ひとりの排泄能力に合った支援・自立に向けた支援を行っている。	居室にトイレと洗面台があり、個別の記録から排泄パターンを把握し、カンファレンス会議で職員間で共有して、利用者の状況に合わせて個別に声掛け誘導して、居室のトイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、昼食時に牛乳やヤクルト等の乳製品の飲み物を出している。体調に合わせて適度な運動を朝やレクリエーション活動の中に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的には、入浴日を決めているが、本人の体調や希望によって、曜日や時間を変えて対応している。	浴槽は、ユニットの3点介助型で、職員に配慮した構造である。入浴は、週2～3回で入浴日は決めているが、利用者の体調など個々の状況に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は運動やレク活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを心がけ、夜間の安眠に繋げるように支援をしている。また体調にあわせて、身体に負担を軽減できるよう静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供書をファイルし都度目的や副作用を確認できるようにしている。また薬の変更があった場合は介護記録や申し送り紙などに記入し変更後の薬の作用による変化などを観察し職員間での情報の提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報を調べてやりがや喜びを感じて頂くことのできる活動やレクレーションをその方の状態に合わせて1日の活動に取り入れている。(歌、鑑賞、食べ物作り)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉がりなどの季節行事や外食などに掛けている。天気が良い時は施設の周辺を散歩にでかけている。	隣接する盲人養護老人ホームと併せて広い敷地内で、散歩や外気浴を日常的に支援している。外出行事は、花見や紅葉狩りなど季節の行事やスイーツドライブやバラ園散策など年間通して計画的に実施している。また、毎年オレンジランにも参加するなど季節に応じた外出支援を行っている。	季節に応じた年間を通しての外出行事を計画的に行っているが、家族と一緒に外出行事を行うなどの意見や要望を聞いて、企画検討することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様からの要望をご家族に伝達する事によって希望されるものを購入等行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望に寄り添い電話を繋ぐなどしている。自力では電話を掛けられない方にかわり電話を取り次いでいる。知人との手紙やはがきの代筆なども行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の毎日の清掃と環境整備に力を入れている。ランチョンマットを季節ごとに取り換える等季節を感じられるような工夫をしている。	ホーム内は、交流ホールを挟んで左右対称のユニットで、全体的に広く共用空間の居間や食堂もゆったりとして、天窓もあり採光や風通しもよい。室内には、季節を感じる自然な飾りつけや行事の笑顔の写真など思い出の掲示もある。リビングには大きな窓があり、利用者はいつも寛いで居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではお客様同士の関係性を考慮し席順や行事の際の座席配置を検討している。共有空間にソファを用意する事でお客様同士の交流も図れている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう自宅で使用していた家具やなじみのもの(写真やぬいぐるみ)を飾るなどして工夫している。	居室には、トイレと洗面台やベットが設置され、プライバシーに配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やご本人の使いやすいテーブルの設置などを行い安全に移動や快適に食事が摂れるよう工夫している。		